

開講科目名 / Course	人間関係学	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second, Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	学問としての心理学が、性格をどのように理解しているのか、性格を実体化し再現可能な方法を用いて客観的な理解を目指す「科学的」アプローチと、性格の状況を超えた一貫性・安定性を前提としない「状況論的」アプローチについて学ぶ。人の悩みの少なからぬ部分は、自身や周囲の人間の性格に関するものである。講義での学びを通して、性格にまつわる悩みから、少しでも距離が取れるようになることを期待する。	
到達目標	1. 人が人を理解するということがどのような営みなのか、心理学における2つの方向性を説明する。 2. 講義で理解したことを、パラグラフライティングの手法を用いて簡潔にまとめる。 3. 個人が抱える人間関係上の問題に、学習した内容を適用する。 4. 学ぶことが個人の内側に閉じた活動ではなく、他者に関わった活動であることの具体例を挙げる。 5. 学習課題に取り組むために、周囲の学習者とのコミュニケーションをとる。 6. 自分自身の学習の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 人格と性格、どのように違うのか？ 02. 性格を科学的に理解するとはどういうことか？ 03. 科学的な性格理解（1）（特性論的性格理解） 04. 科学的な性格理解（2）（類型論的性格理解） 05. プレグナントの法則と性格理解（全体は部分の総和か？） 06. 状況論的な性格理解（システム論についての基本的な理解） 07. 状況論的な性格理解の方法（1）（観察：図と地、図地反転） 08. 状況論的な性格理解の方法（2）（拘束としてのコミュニケーション）	
その他の授業の工夫	・ 毎回、授業開始時に抽選で座席を指定する。 ・ 挙手による発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・ 時間外学習を促進するために、web上に掲示板を設ける。 ・ 毎時、講義終了後に時間外課題を課す。 ・ 各自の累積平常点を、毎時明示する。	
時間外学修	・ 毎時、講義終了後に要約とコメントからなるショートレポートを課す（12h）。 ・ 毎時、講義開始までに視聴する5分程度の動画を指定する。講義冒頭に内容理解度に関する小テストを行うので、準備をしておくこと（6h）。 ・ 事後課題作成のために、学生が交流する掲示板への投稿（4h）。	
評価方法と評価割合	期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト（4点/回）、講義内容の要約課題（4点/回）、授業を受けてのコメント（2点/回）、授業での発表（1点/回）、web掲示板への投稿（1点/回）、時間外の掲示板への投稿（3点/回）の得点を8回分集計して評価する。評価の基準は初回講義時に説明資料を配布する。講義を欠席した場合、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定方法について、初回にプリントを配布し説明するので、出席すること。8回目の講義終了時点で、合計得点が合格ラインに達しなかったものが希望した場合（のみ）、再試験を実施する。	
テキスト	遠隔講義の場合は、毎時、講義動画を配信する。対面講義の場合は、ハンドアウトを配布する。	
参考書	「モード性格」論（紀伊国屋書店）	
履修する上で必要な要件		
その他	前期開講科目「人のこころの働き」の講義内容とあわせて考えると、そこから何らかの大きな生きていく上での指針を導き出せると思います。これからの自分の人生を、十二分に楽しめるよう、自分なりの指針を作ってもらえると嬉しいです。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	全ての受講生の共通体験として、学校生活がある。学校で頻繁に観察される事象を例にとりながら、課題を構成したり、例示を行う。例：言いたいことがあったら、言いなさいと先生に言われて、言いたいことを言ったら怒られた→ダブルバインド。
---------------	--